

氏名	倉橋 寛 明
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 4891 号
学位授与の日付	平成 26 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	Testosterone replacement elevates the serum uric acid levels in patients with female to male gender identity disorder (テストステロン置換療法はGIDのFTM患者の血清尿酸値を上げる)
--------	--

論文審査委員	教授 大塚 文男 教授 難波 祐三郎 准教授 増山 寿
--------	-----------------------------

学位論文内容の要旨

性同一性障害（以下 GID と省略）とは生物学的な性別と個人が自覚している性別とが異なる病態である。治療には、肉体的な変化を目的として患者が自覚する性ホルモンの投与を行う。そのため、female to male 患者（以下 FTM 患者と省略）にはテストステロン置換療法（testosterone replacement therapy、以下 TRT と省略）がよく行われている。TRT は投与形態、投与量、間隔など様々である。

我々は、テストステロンエナント酸エステル製剤を 3 つの投与量（125mg/2weeks、250mg/3weeks、250mg/2weeks）に分けて、TRT の肉体的な変化を過去に報告した。これまで、TRT による尿酸値に関する報告はなされていなかった。今回、FTM 患者における TRT の容量と尿酸値に関する報告をする。

岡山大学病院 GID クリニックにて 2002 年 1 月～2011 年 5 月まで計 160 人を診断し、TRT を行った。TRT を容量別に、125mg/2weeks、250mg/3weeks、250mg/2weeks の 3 群に分け、逆行性に尿酸値と TRT の容量を検証した。

尿酸値とクレアチニン値には統計学的に優位な正の相関関係が認められた。尿酸値の上昇は TRT の容量依存性であることが分かった。

論文審査結果の要旨

本研究は、性同一性患者（GID）において、とくに Female to Male (FTM) 患者に対する男性ホルモン治療の影響として、血清尿酸値の上昇作用に着目した研究である。岡山大学病院における GID クリニックで加療された症例のうち、テストステロン製剤を投与された FTM 症例において、125～250mg/2～3 週の投与群に分類して治療効果と男性ホルモン変化について逆行性に評価を行い、その結果として、尿酸値の上昇がテストステロン補充治療の容量依存性であることが示された。本研究は、GID 症例の尿酸代謝異常や心血管予後における影響において、重要な知見であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。